



# 桃五だより



No.607

(1月号)

2022.1.11

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

## 子供たちには、力があるのだから

校長 川田 忠

新年 あけましておめでとうございます。

令和4年が始まりました。今年も、子供たちの健やかな成長のために、桃五小の教育活動を展開していきます。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

学期末が近づいた12月22日に、児童集会として長縄集会を行いました。全校児童が校庭に集まり、運動委員会の子供たちの司会の下で、低学年は0の字跳び、中・高学年は8の字跳びを学級ごとに5分間挑戦しました。

本当に久しぶりに見る光景でした。学級ごとに子供たちが一体となって長縄に向かっている。5分間の時間内で何回跳べるのか、どの学年の子供たちもクラス新記録をめざして集中していました。校庭に、全校児童の熱気が充満していました。

5分間跳び終えた子供たちは、担任などが計測した記録がどうなのかを知りたがり、小さく集まる学級がたくさんありました。クラス新記録を達成した学級からは、歓声が上がりました。

それぞれの最高記録は次の結果となりました。1年生は、55回。2年生は、160回。3・4年生は、313回。5・6年生は466回。発達段階に応じて、記録が上がっていく結果となりました。練習の成果が出なかった学級や、目標に到達しなかった学級もありましたが、5分間の挑戦を真剣に行う姿はみな同じでした。

この長縄の取り組みは、本来なら1学期から始める予定でした。しかし、今年度は緊急事態宣言が継続して発令されていたために、密になる長縄跳びを控えてきました。そのため、長縄跳びを始めたのは10月以降。コロ

ナ禍になる前と比べれば、運動の機会はとても少ない状況でした。

その中で上記の記録は、わずかな練習期間でも子供たちが着実に伸びていくことを示しています。新型コロナウイルス感染拡大によって、子供たちの運動遊びは制限され、体力向上への影響が出ているはずですが、今回の長縄跳びでは顕著な違いとしては現れず、子供たちは学年相応の様子を見せてくれました。

学校では、子供たちの成長を願って期待して、日々の教育活動を続けています。学校は、子供たちの成長をあきらめることはしません。どんな時も、子供たちに元気や勇気を与え、子供自らが次に向かって歩き出すように仕向けます。「この子はこれしかできない」や「こういう子供なんだ」といった、大人の判断で枠をはめることもしません。子供の可能性を信じて、次の成長を待ちます。今は表出していない能力が開発されたり、新たな得意技が出現したりすることを、希望をもって待っています。

今回の長縄集会の様子は、子供たちの可能性を強く感じる時間となりました。子供たちには、力がある。ならば、その力を高めるように更なる教育活動の充実を図っていかねばと考えます。

教育には、どんな子供、どんな様子にも応じていけるトラの巻はありません。でも、教職員の知恵を集め、技を使い、協働することで子供たちを育てる教育力は高まります。保護者や地域が、そんな学校を支えていただいていることも、桃五小の強みです。今年寅年。寅にあやかって、迫力ある教育実践を重ねたい。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

### 1月の生活指導目標

#### 寒さに負けない体をつくろう

3学期に入り、寒さが一段と厳しくなる季節になりました。学校では、感染予防のために教室や廊下の窓を開けておく等、換気をよくしているので例年の冬よりも室温が低くなっています。寒さを感じた時にもう1枚重ね着できるように、セーターやトレーナーなどを用意して、登校をさせてください。ウイルスに負けない健康な体をつくるために、十分な睡眠と、バランスのよい食事、元気に外遊びなど、学校や家庭でも行いましょう。